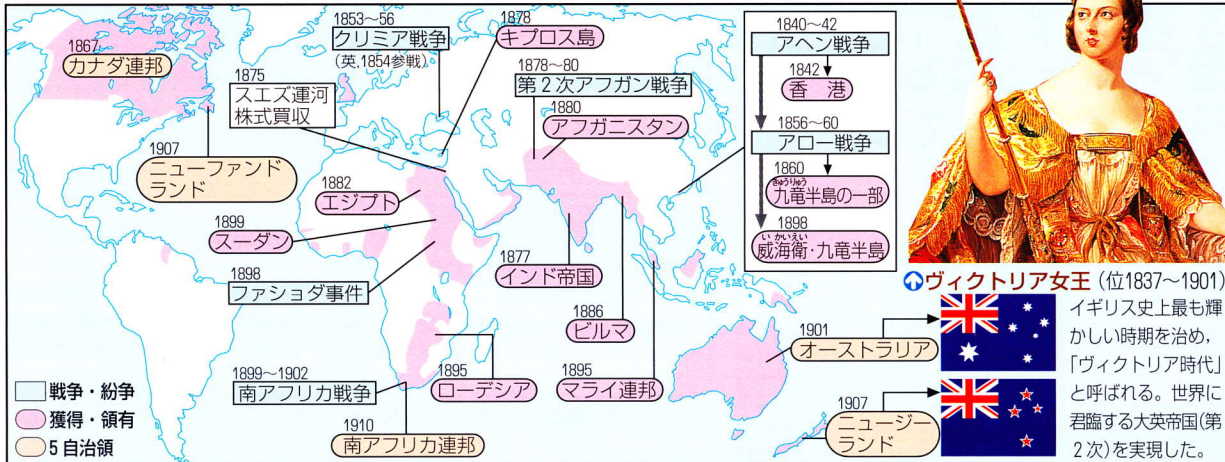


1 自由主義的改革

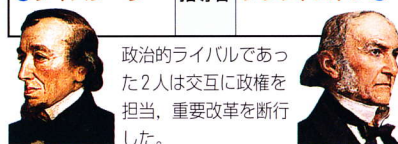
- 1801 大ブリテン = アイルランド連合王国(アイルランド併合)
- 1807 奴隷貿易禁止(人道主義から禁止, 植民地の農業主は反対)
- 1811 ライト運動(労働者による機械打ちこわし運動)おこる
- 1813 東インド会社の対インド貿易独占権廃止
- 1815 ウィーン会議でセイロン島, マルタ島, ケープ植民地獲得
- 1822~外相カニングによるラテンアメリカ・ギリシアの独立運動支持(カニング外交)
- 1824 団結禁止法廃止
- 1828 審査法廃止(旧教徒を除く非国教徒の公職を認める)
- 1829 カトリック教徒解放法
- 1832 第1回選挙法改正
- 1833 奴隷制度廃止(植民地の農業主の猛反対), 工場法
- 東インド会社のインド内商業活動全面禁止, 対中国貿易独占権廃止
- 1838 チャーティスト運動(~48, 人民憲章をかかげた労働者の政治運動)
- 1839 反穀物法同盟結成(コブデン・ブライトら中心)
- 1840~42 アヘン戦争
- 1846 穀物法廃止(輸入穀物への高関税廃止)
- 1848 公衆衛生法制定(チャドウィックら中心)
- 1840 航海法廃止(自由貿易主義の確立)
- 1851 ロンドン万国博覧会(第1回)
- 1856~60 アロー戦争
- 1857~58 シバーヒー(セポイ)の反乱
- 1858 東インド会社解散
- 1867 第2回選挙法改正(保守党ダービー内閣)
- カナダ連邦の成立(自治領の始まり)
- グラッドストーン内閣(第1次) (自由党 1868~74)
- 1870 普通教育法(国民教育の普及)
- 1871 労働組合法(労働組合の合法化)
- ディズレーリ内閣 (保守党 1874~80)
- 1875 スエズ運河株の買収
- 1877 インド帝国の成立(皇帝をヴィクトリア女王が兼ねる)
- 1878 ベルリン会議でロシアの南下を阻止
- グラッドストーン内閣(第2次) (自由党 1880~85)
- 1882 エジプト占領
- 1884 第3回選挙法改正
- フェビアン協会成立(ウェッブ夫妻・バーナード=ショールらによる漸進的な社会主義団体)



ヴィクトリア女王(位1837~1901)

イギリス史上最も輝かしい時期を始め、「ヴィクトリア時代」と呼ばれる。世界に君臨する大英帝国(第2次)を実現した。

保守党		自由党	
トリー党(バーミンガム)	旧名(拠点)	ホイッグ党(ウィグ党)(マンチェスター)	
地主階級, 貴族	支持層	産業資本家	
伝統的秩序の維持	内政	自由主義的改革推進 自由貿易 アイルランド自治賛成	
保護関税	外交	平和外交 植民地に自治を与える(小英国主義)	
アイルランド自治反対	指導者	パーマストン グラッドストーン	
帝国主義政策			
植民地拡大(大英国主義)			
ソールズベリ			
ディズレーリ			



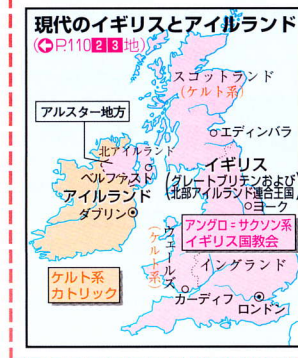
政治的ライバルであった2人は交互に政権を担当, 重要改革を断行した。

3 イギリス選挙法改正

事項	年次	内閣(政党)	参政権の拡大
第1回選挙法改正	1832	グレー内閣(ホイッグ党)	改正前は貴族・地主が独占(3%) 都市の産業資本家 4.5% 腐敗選挙区の廃止
第2回選挙法改正	1867	ダービー内閣(保守党)	都市の工業労働者のほとんど(100万人) 9%
投票制度改革	1872	グラッドストーン内閣(自由党)	口頭による選挙 → 投票用紙使用
第3回選挙法改正	1884	グラッドストーン内閣(自由党)	農業労働者・鉱山労働者 19%(成年男子700万人中500万人)
第4回選挙法改正	1918	ロイド=ジョージ内閣(自由党)	男子普通選挙(満21歳以上)女子制限選挙(満30歳以上) 46%
第5回選挙法改正	1928	ボールドウィン内閣(保守党)	男女平等普通選挙(満21歳以上) 62%
第6回選挙法改正	1969	ウィルソン内閣(労働党)	男女平等普通選挙(満18歳以上) 71%



● アイルランド問題



ホームズと大英帝国

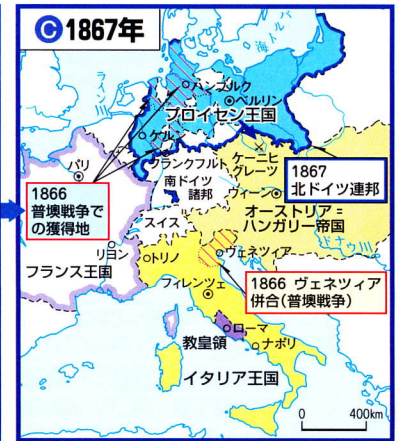
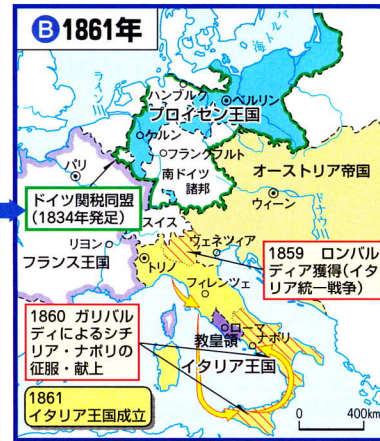
コナン=ドイル作の「シャーロック=ホームズ」シリーズには, 当時の大英帝国支配下のインドの話が多く登場する。助手のワトソンは第2次アフガン戦争(1878~80)で負傷した軍医である。

コナン=ドイル(1859~1930)

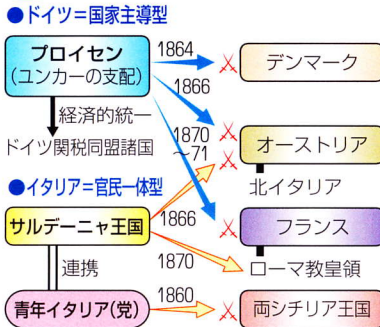
ワトソン

### 1 イタリア・ドイツ統一運動の進展

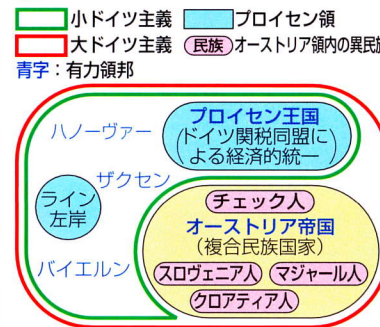
イタリア(官民一体型の統一運動) (P134 1年, P202 1年)	ドイツ(国家主導型の統一運動) (P142 3年, P189 2年)
ナポリのブルボン朝やローマ教皇領の復活による分裂と、オーストリアによる北イタリア(ヴェネツィアなど)支配 1820~21 <b>ナポリ革命(カルボナリの反乱)</b> ↳ 失敗 1831 <b>イタリア騒乱(カルボナリの革命)</b> ↳ 失敗・組織解体 1831 「青年イタリア(党)」の結成(指導者 マッツィーニ) ↳ 共和主義によるイタリア統一をめざす 1848 サルデーニャ王カルロ・アルベルトによる統一運動 ↳ オーストリア軍に敗れて挫折 1849 <b>ローマ共和国成立</b> (指導者 マッツィーニ) ↳ フランス軍の攻撃で崩壊 1852 <b>サルデーニャ首相カヴール就任</b> 1855 サルデーニャ、クリミア戦争に参戦(英・仏軍を支援) ↳ 英・仏の歡心をかう 1859 <b>イタリア統一戦争でロンバルディア獲得(仏の支援)</b> ↳ 中部イタリア併合(1860) 1860 <b>ガリバルディのシチリア・ナポリの征服献上</b> 1861 <b>イタリア王国の成立(国王ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世)</b> 1866 <b>ヴェネツィア併合(プロイセンと同盟してオーストリア撃破)</b> 1870 <b>ローマ教皇領占領(フランス軍の撤退に乗じローマ入城)</b> ↳ ローマ遷都(1871)、「未回収のイタリア」残存 1871	ドイツ連邦(35君主国と4自由市で構成、オーストリアを議長国とする)が成立するが、事実上分裂状態 1817~19 <b>ブルシェンシャフトの運動</b> ↳ 弾圧(←カールスバード決議) 1830 <b>ザクセン・ヘッセンなどで暴動</b> ↳ 鎮圧 1834 <b>ドイツ関税同盟の成立</b> (経済学者リストラが提唱) ↳ プロイセン中心の経済的統一の進行 1848 <b>ウィーン・ベルリン暴動(三月革命)</b> (メッテルニヒの亡命) ↳ 弾圧 1848~49 <b>フランクフルト国民議会</b> (小ドイツ主義の統一を決定) ↳ プロイセン王の皇位拒否により失敗 1850年代 ドイツ産業革命の開始
ウーロン会議 1814~1815	
七月革命 1830	
二月革命 1848	
クリミア戦争 1853~1856	
普仏戦争 1866	
普仏戦争 1870~1871	



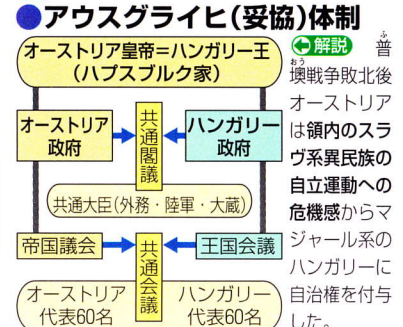
### 3 統一運動の違い



### 4 小ドイツ主義と大ドイツ主義

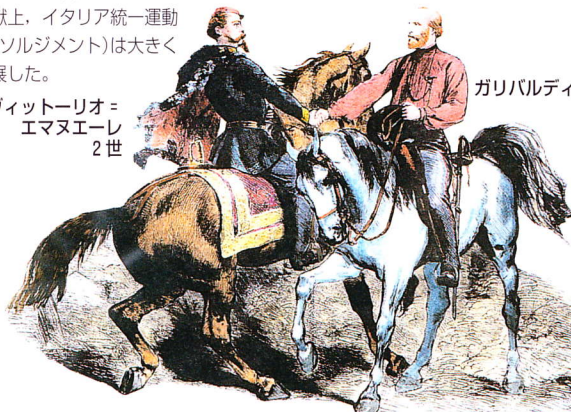
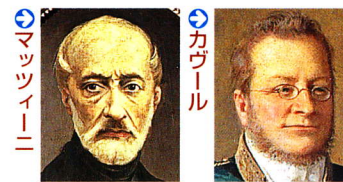


### 5 オーストリア=ハンガリー帝国

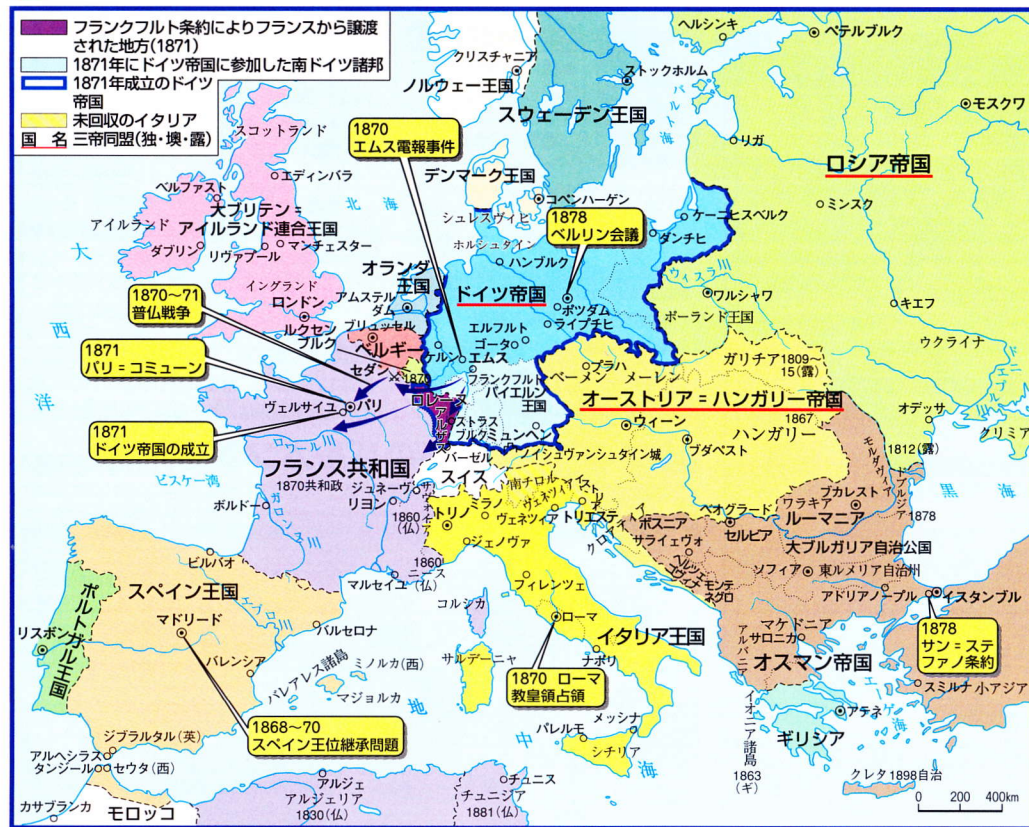


### 6 イタリア統一の立役者たち

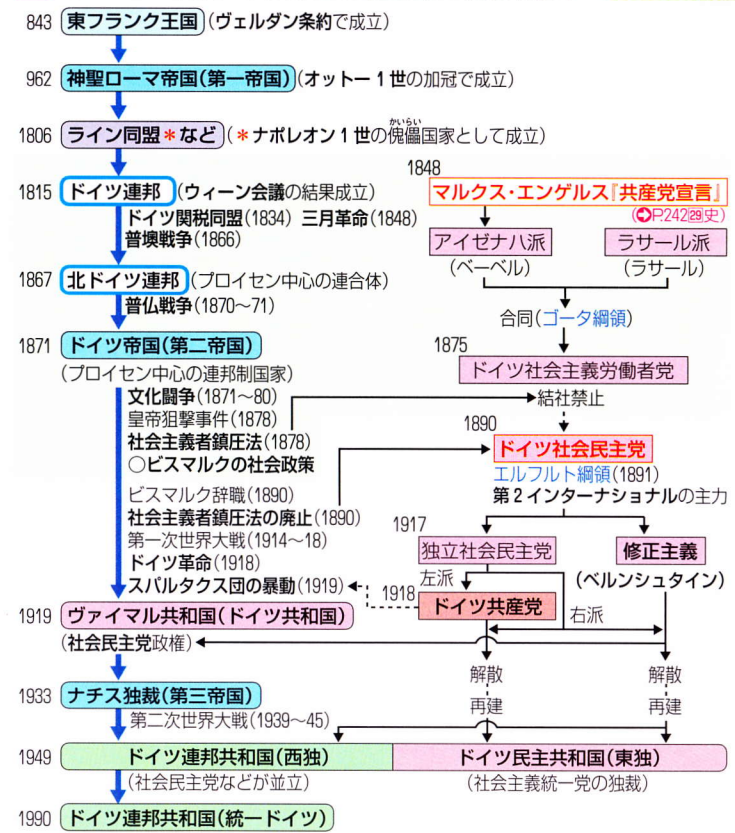
解説 「青年イタリア」の指導者ガリバルディは、1860年に義勇軍「千人隊(赤シャツ隊)」を率いてシチリアを占領しサルデーニャ王に献上し、イタリア統一運動(リソルジメント)は大きく進展した。



### 7 イタリア・ドイツ統一時のヨーロッパ(1870年代)



### 8 ドイツ政体の変遷と社会主義政党



#### ●ビスマルク

— 19c最大の策略家 —

ユンカー出身のプロイセン首相。国内では「鉄血宰相」として軍備拡張を進める一方、対外的にはデンマーク戦争へのオーストリア誘い込みや普仏戦争に際してのエムス電報事件など多くの策謀を用いた。

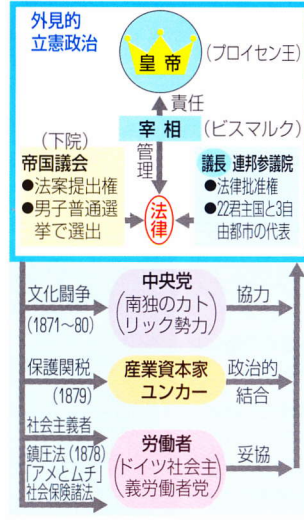
●ビスマルク (任1862~1890)

#### ●史料 鉄血演説

…言論や多数決によっては現下の大問題は解決されないのであります。言論や多数決は1848年及び1849年の欠陥でありました。鉄と血によってこそ問題は解決されるのであります。

●ノイシュヴァンシュタイン城 ビスマルクはプロイセン王をドイツ皇帝とするため、バイエルン王ルートヴィヒ2世の力を借り、その代償として城の建築資金を援助した。

#### ●ビスマルクの国内政策



#### ●ドイツ帝国の成立

普仏戦争末期の1871年1月18日、プロイセン王ヴィルヘルム1世が、ヴェルサイユ宮殿「鏡の間」(P146写)でドイツ皇帝として即位、ドイツ帝国は成立した。(ヴェルナー画「ドイツ皇帝即位布告式」) ファサネリー宮殿(ビスマルク博物館)蔵(独)

